

福知山市避難のあり方検討会 最終とりまとめ（概要）

1 検討会の概要

【検討会の設置目的】

近年、温暖化等により気象状況が激変する中で、激甚化・頻発化・集中化する豪雨災害や、急激に進行する少子高齢化などの社会環境の変化、情報伝達ツールが多様化していく中で、改めて、市民の避難に対する意識のあり方や、避難行動につなげるための情報発信のあり方、避難所運営等も含めた自助・共助・公助の観点から本市の避難のあり方全般についてその方向性を議論するため有識者等による検討会を設置し、今後の対応策の検討を行った。

今回、その議論において、福知山市避難のあり方検討会の最終報告を取りまとめ、今後、テーマごとの方向性について、具現化を図るための具体的な取組をそれぞれ進めることで、福知山市の自助・共助・公助が機能し、「市民とともにつくる災害に強いまちづくり」を市民・関係機関・市がしっかりと連携して進めることとする。

【検討会実施経過】

令和元年11月12日 第1回検討会

・設置目的、全体の進め方について「1～3のテーマについて」 課題と今後の対応策を検討

令和元年12月19日 第2回検討会

・第1回会議の検討内容の整理「4～6のテーマについて」 課題と今後の対応策を検討

令和2年2月18日 第3回検討会

・整理、取り組むべき具体的な内容について議論・確認 ・中間取りまとめ案の確認

・令和2年度の取組の内容について報告

令和2年6月 「福知山市避難のあり方検討会中間とりまとめ」策定

令和2年12月18日 第4回検討会

・「中間とりまとめ」における調整事項を踏まえた取組内容について

令和3年2月14日 避難のあり方シンポジウム → 新型コロナの影響により延期

令和3年2月18日 第5回検討会（リモート開催）

・避難のあり方検討会最終とりまとめ（案）について

【最終とりまとめの構成】

…はじめに…

I. 過去の主な災害に係る気象等の概況と被害の概要

II. 検討テーマごとの現状、課題と今後のあり方及び事業評価指標

テーマ1 「避難のスイッチとなるどんな情報をどのような形で発信するのか！」

テーマ2 「高齢者や災害時要配慮者等に情報をどのように伝えるのか！」

テーマ3 「高齢者等の災害時要配慮者など、住民をどのように誘導するのか！」

テーマ4 「避難先はどうするのか！」

テーマ5 「避難所の受入れ体制・運営はどうするのか！」

テーマ6 「災害リスクを理解し避難行動につなげるための防災教育の推進！」

III. 参考資料



【検討会委員】

（有識者）

京都大学防災研究所教授

座長

矢守 克也

香川大学創造工学部講師

副座長

竹之内 健介

（地域代表）

自治会長会代表

谷垣 均

自主防災組織

小滝 篤夫

民生児童委員連盟会長

関 三千彦

（関係機関等）

福知山市社会福祉協議会会長

夜久 豊基

民間社会福祉施設連絡協議会

廣田 真

福知山河川国道事務所長

矢野 則弘

京都府危機管理部長

壺内 賢一

中丹広域振興局地域連携・振興部長

能勢 重人

中丹西土木事務所長

岩崎 英徳

（オブザーバー）

京都地方気象台 防災管理官

立神 達朗

（福知山市）

福知山市副市長

伊東 尚規

福知山市消防団長

池澤 徹



避難のあり方検討会の様子

2 各テーマにおける取りまとめ概要

【テーマ1.避難のスイッチとなる情報をどのような形で発信するのか！】

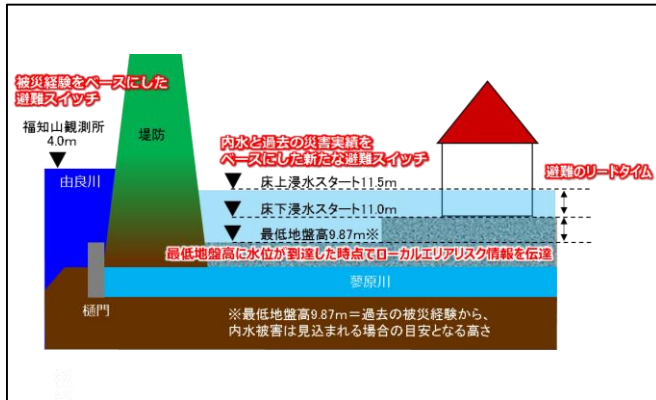
○現状及び課題

- ・災害時、様々な情報伝達手段により情報発信しており、情報が伝わっているが、実際の避難に繋がっていない。
- ・災害時には、広域的な数多くの情報があふれており、市民が自分自身に関わるリアルで、かつ避難行動に繋げるべき情報として捉えられていない。
- ・自ら避難に踏み切れない人であっても、信頼できる人からの声掛けにより避難に繋がるケースがある。

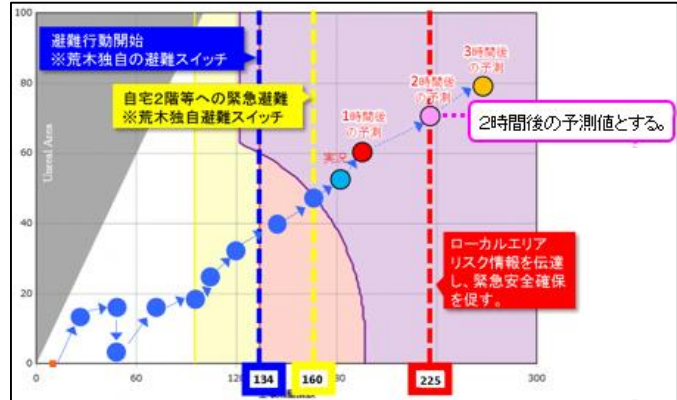
○今後の方向性

- (1) 各地域において、それぞれの災害リスクに応じて市民が切迫感をもって、自分事として捉えられる避難スイッチとなる情報として、マイマップの取組を通じ、ローカルエリアリスク情報の設定を行う。

＜内水氾濫モデル地区大江町夢原自治会の避難スイッチの設定イメージ＞



＜土砂災害モデル地区荒木自治会の避難スイッチの設定イメージ＞



- (2) 防災アプリ等デジタル防災行政無線システムにより避難情報等を補完するローカルエリアリスク情報の発信を行うとともに、地域が主体的に情報収集を行うよう取組を進める。

＜ローカルエリアリスク情報の伝達から避難行動までのイメージ＞



- (3) 地域住民が参画してマイマップ・マイタイムラインを作成するとともに、訓練への活用を含め避難の実践に繋げる。

＜夜久野町柿本マイマップ＞



【テーマ2.高齢者や災害時要配慮者等に情報をどのように伝えるのか！】

○現状及び課題

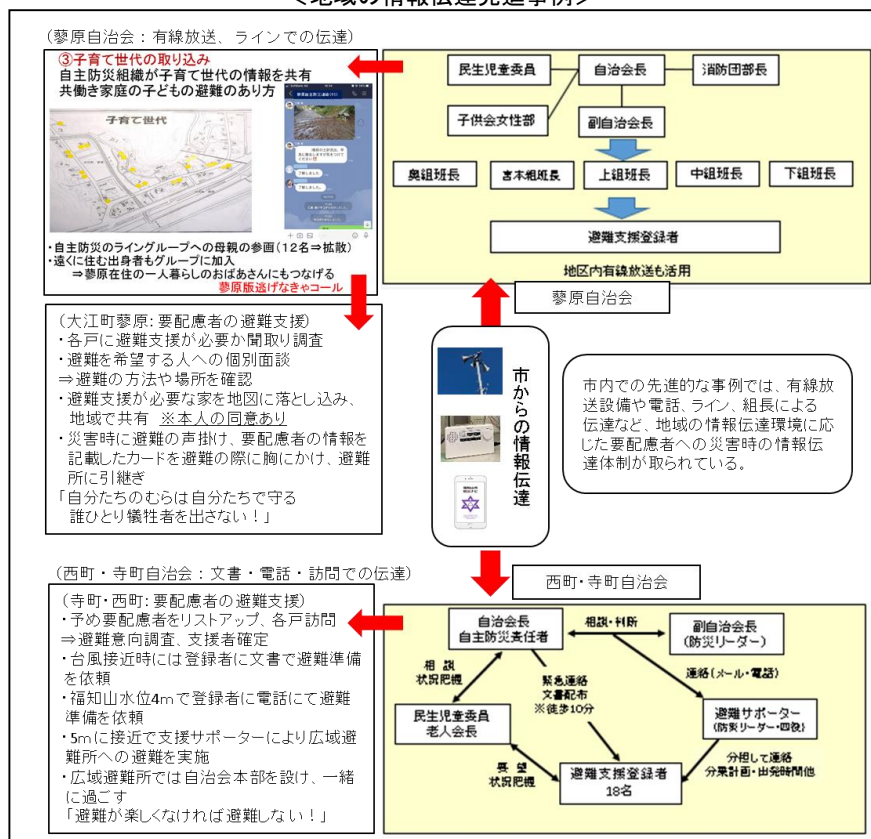
- ・地域では、災害時要配慮者に対して避難の呼びかけが行われ、実際の避難につながった事例が多くある。
- ・市が市民に対し、避難情報等を伝達するため、情報が伝わりにくい災害時要配慮者も含めたメールや戸別受信機等を活用した一層の個別受信体制の整備が必要である。
- ・災害時要配慮者以外の元気な高齢者や子どもたち等のフォローをどうするのか。
- ・情報が伝わらない人がないように、例えば地域内のリーダー等を中心とした直接の声掛け等による情報伝達、情報共有の仕組みが必要である。



○今後の方向性

- （１）要配慮者に有効な情報伝達手段として防災アプリを導入、インストールサポートや広報・啓発により活用促進を図る。
- （２）地域での情報伝達について、先進事例の紹介等により体制整備の働きかけを行うとともに、リーダーの育成、「逃げなきゃコール」を推進する。

＜地域の情報伝達先進事例＞



＜防災アプリ機能：要配慮者対応抜粋＞



＜逃げなきゃコールの推進＞



【テーマ3. 高齢者等の災害時要配慮者など、住民をどのように誘導するのか！】

○現状及び課題

- ・ 福知山市災害時要配慮者支援事業により事前に地域に名簿の提供を行っているが、手上げ方式であるため、全要配慮者を網羅した名簿とはなっていない。
- ・ 共助での避難支援の強化及び共助による避難支援が困難な重度の要配慮者の支援を検討する必要がある。
- ・ 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成、訓練実施の取組が進んでいない。

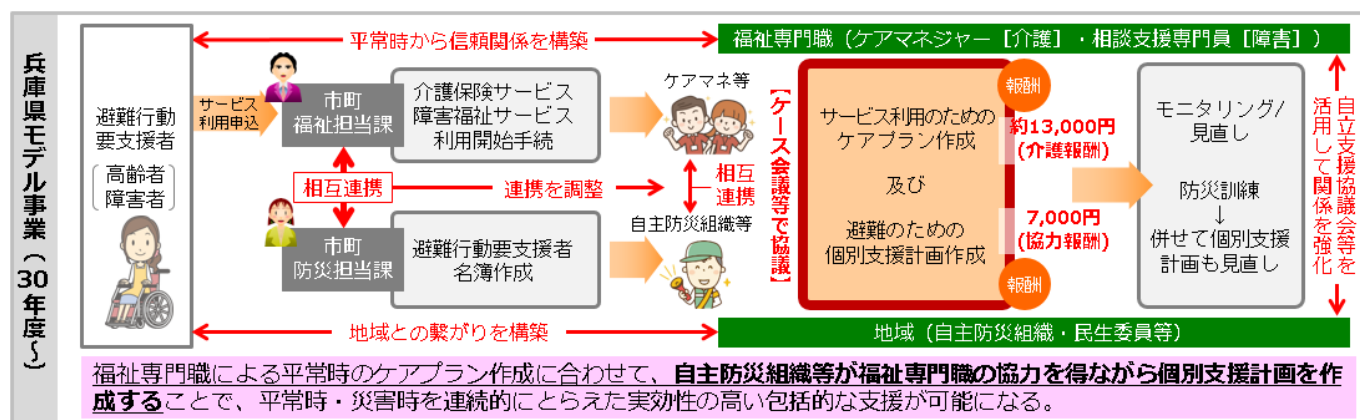
○今後の方向性

- (1) 現在の手上げ方式による要配慮者の名簿の作成、地域への提供について、令和3年度から同意方式に切り替える。条例制定による名簿提供手法については、引き続き検討を進める。
- (2) 共助による避難支援の強化や災害時ケアプランの作成については、マイマップ・マイタイムラインの取組や災害時ケアプランのモデル実施により要配慮者の避難体制の確保を図る。
- (3) 災害時ケアプランの取組を通じた福祉施設での受入拡大や地区避難所、マイカー避難等の多様な避難先の確保・開拓を推進する。



＜大江町夢原マイマップに基づく避難訓練＞

＜兵庫県モデル事業「災害時ケアプラン」＞



- (4) 名簿作成や要配慮者の個別避難計画など、国の動向に留意しながら取組を進める。
- (5) 要配慮者利用施設の避難確保について、令和3年度中の全施設での計画策定を完了させるとともに各施設での訓練を推進する。



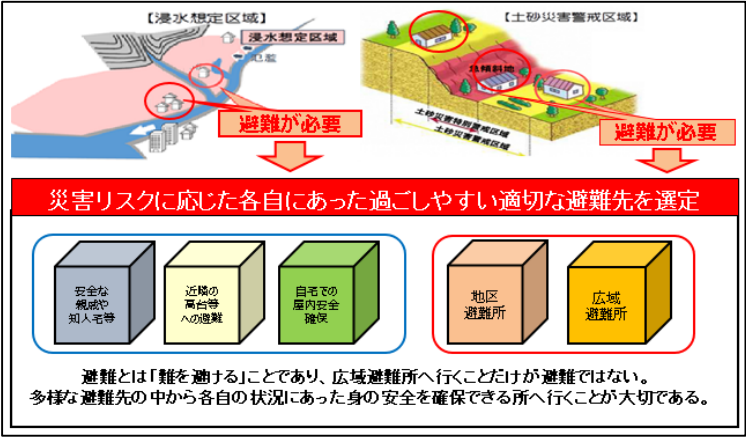
避難確保計画研修会

【テーマ4. 避難先はどうするのか！】

○現状及び課題

- ・避難所へ避難者が集中することによる
 収容人員超過のおそれがある。
- ・地域が自主的に開設する地区避難所
 の実態把握と今後の運用の検討が必要
 となっている。
- ・「避難」とは何を意味するかについて市
 民への周知が必要である。

＜市民の避難先のイメージ＞



○今後の方向性

（１）避難場所の多様な選択肢の中から、市民各自が災害リスクに応じた適切な避難場所を選択することが重要であり、引き続き広域避難所の開設や地区避難所の有効活用を図る取組等によって住民の避難誘導に繋げる。

＜マイマップで設定された事前の避難場所数＞

個人宅	民間企業	医療機関	老人介護施設
15箇所	4箇所	1箇所	1箇所
寺社仏閣	農業施設	官公庁施設	高架道路等
2箇所	4箇所	1箇所	2箇所

＜マイマップ作成を通じた次善の避難場所の設定＞



（２）各地域において災害リスクや避難行動を我が事として認識してもらうため、マイマップ・マイタイムラインの作成を推奨すると共に、市民が実践しやすい防災に関する情報を季節やイベント等適切なタイミングで発信する。

＜広報ふくちやま令和2年7月号＞



【テーマ5. 避難所の受け入れ体制・運営はどうするのか！】

○現状及び課題

- ・市の広域避難所に避難者が集中した場合、対応が困難になる事が予想される。
- ・避難所は必ずしも過ごしやすい場所となっておらず環境改善を進める必要がある。
- ・長期避難に対応した避難所運営や、支援を受けるための取り決めに策定する必要がある。
- ・長期避難を想定した避難者ケア体制の整備、資機材の充実を図る必要性がある。
- ・コロナ禍に対応した避難所整備の必要がある。
- ・災害時要配慮者の避難先確保が必要である。
- ・道路冠水を想定した緊急車両の通行経路の確保が必要である。

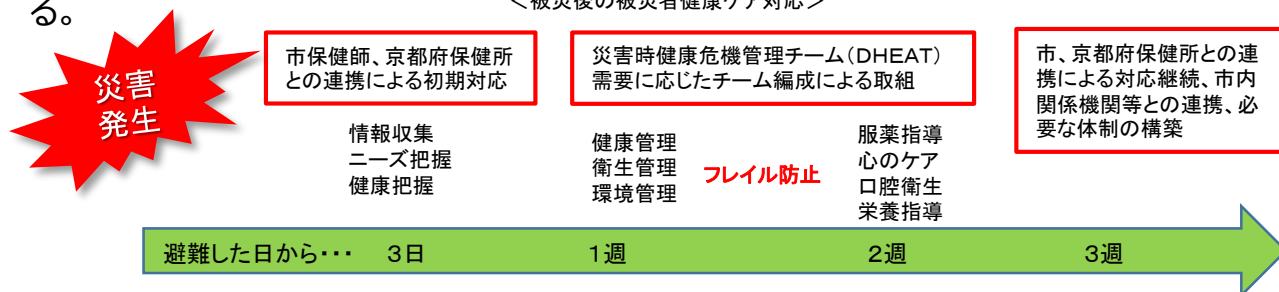
＜令和2年度福知山市地域防災訓練＞



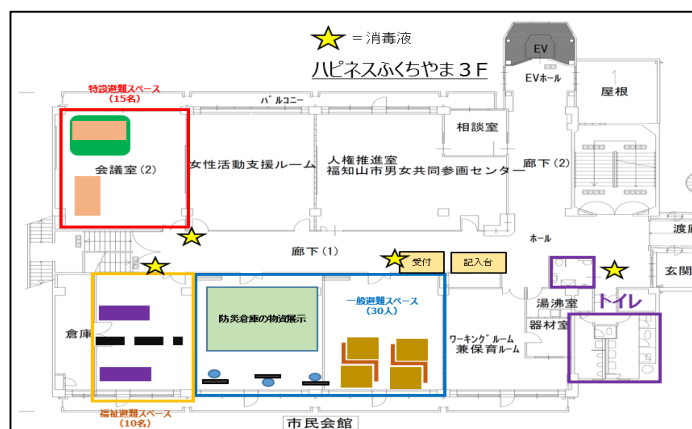
○今後の方向性

- (1) 住民による自主的な避難所運営や様々なニーズへの対応など、指定緊急避難場所・指定避難場所の運営のルール化を進める。
- (2) 指定緊急避難場所・指定避難所の施設改修に合わせた施設環境整備や資機材整備を計画的に行うとともに、避難所生活における健康管理について支援体制を構築する。

＜被災後の被災者健康ケア対応＞



- (3) 福祉避難スペースを有する避難所をはじめとする広域避難所における資機材の整備・充実等、環境改善を計画的に進めるとともに、災害時要配慮者の避難受入体制の整備を進める。



＜コロナ禍を踏まえた避難所の環境整備＞

- (4) 平常時から関係機関と連携して代替道路の確認を行い、災害時における緊急車両の移動経路の確保を行う。

○現状及び課題

- ## ○今後の方向性

A large group of students are sitting on the floor in a gymnasium, facing a stage. On the stage, a teacher is standing next to a large screen displaying a presentation. The gymnasium has a high ceiling with exposed wooden beams and a basketball hoop on the right side. The students are arranged in rows, and the teacher is positioned at the front of the room.

防災教育の授業風景

福知山自主防災ネットワーク

ニュースNO.2 2020年12月2日発行
～市民有志による自主防災活動の実践交流と研修の場～



市民有志による各種講座
大分大は、2014年3月第1回自主防災地域の山火防備の様子

☆第1回公開研修会実施報告
11月15日(日)午後、中野町教育委員会第4ホールにおいて福知山自主防災ネットワーク第1回公開研修会を実施しました。

コロナ対策の策定のため、参加者はマスクを着用しと消毒、体温測定を実施し、万が一感染拡大の恐れも感じました。

座長陣「コンチネンタル」を推薦し、長机には「ズボン」をならぬという苦節でした。

当日の参加者は、福知山の自治会・町民会、市民会議員、自主防災関係者、市民見学者など24名でした。

これまでに3回市町村の防災会議について研修を受けてきました。福知山地区で自主防災の危機意識も高まることから、今回は主防災員について学びたい、希望の

(当日の主な内容)

- 1 基調講演
テーマ 主防災員について
講師 小堀誠夫先生(地学博士)
福知山自主防災会会長
- 2 実践報告
A 福知山自治会長 大田 浩志
B 内蔵5丁目理事 西下 泰祐
- 3 分科委員会
参加者が関心に応じて4分科グループに分かれ、感想交流や意見交換を行いました。

- A 会議室で主防災員の課題など
- B 福知山の報告を受け、山内川町の防災会議の課題など
- C 内蔵5丁目の報告を受け、町内海地の防災意識の課題など

福知山自主防災ネットワーク提供

[illegible]